

科目名 地域・在宅看護論実習	授業担当者 日野 由樹子	所属 中通高等看護学院
開講時期 :前期～中期	単位数 :2 単位	時間数 :80 時間
授業の目的 地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを総合的に理解し、在宅看護を必要とする人々が望んでいる生活や生き方を支援できる看護の実践能力を養う。		
授業の概要 本実習は、複合老人福祉施設リンデンバウムいずみ(特別養護老人ホーム・通所介護・地域包括支援センター・看護小規模多機能型居宅介護)、福祉複合施設ウェルビューいずみ(障害福祉サービスセンター)、中通訪問看護ステーション、中通ケアプランセンター、中通健康クリニック、社会福祉法人遊心苑(通所リハビリテーション)で行う。 施設実習では、地域で生活する人々を支える多様な場での見学、実践を通して福祉施設の機能や役割、地域包括ケアシステムの実態を学ぶ。また、多職種の中の看護職の専門性を理解し、地域包括ケアシステムの推進について考える機会とする。訪問看護ステーション実習では訪問看護師、ケアマネジャーとの同行訪問を通じ、地域で暮らす人々の実態を学ぶ。在宅看護の特徴や在宅療養者と家族との関わり方を学び、在宅における看護師の役割と機能を理解する。また、健康クリニック実習を通じて、保健活動について考える機会としたい。 実習を通じて、多くの専門職と接する機会がある。多職種とどのように連携・協働を図っているのか、それが何に向かっているのかを考え、看護の専門性とは何かを深めてほしい。		
受講上の注意・事前学習の内容 実習場所・施設が多岐にわたり、これまでの実習環境との違いを感じて緊張度が高まることが予想されるが、報告・連絡・相談を心掛け臆することなく、主体的な学びの場としてほしい。 基礎的知識として、実習要綱に提示している事前学習を行うこと。		
授業計画 1. 複合施設実習 3 日間、訪問看護ステーション、ケアプランセンター、及び健康クリニック実習を合わせて 3.5 日間、通所リハビリテーション 1 日間とする。 2. 施設実習では、0.5～1 日間ずつグループを数名に分けて各施設を周る。見学が中心となるが、可能な範囲で修得できているケアを実践する。日々の記録に、実践記録とともに、各施設の役割や看護職の役割についてまとめる。更に、各専門職の講義を受け学びを深める。 3. 訪問看護実習では複数の療養者に訪問し、ケースごとに臨床判断プロセスを用いて訪問記録をまとめ、訪問看護職の役割を考えられるようにする。1 ケースで在宅看護過程関連図を作成し、療養者の全体像を捉えられるようにする。ケアプランセンターでは、ケアマネジャーとの同行訪問場面を臨床判断プロセスを用いて記録し、その役割や多職種連携の在り方や地域包括ケアシステムについて考えられるようにする。健康クリニックでは見学を通じて、その機能について学びと考察を記録する。 4. 通所リハビリテーションでは、在宅生活を継続する利用者への関わりの実態を学び、通所リハビリテーションの役割・特徴、介護予防・看護の役割について考える機会とする。 5. 実習最終日に、実習ポートフォリオを用いて、成長報告を行う。		
テキスト 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践		
参考書・指定図書 公衆衛生がみえる 2024-2025 メディックメディア 介護施設の看護実践ガイド 日本看護協会		
評価の方法 ルーブリックに基づいて評価(教員・臨地実習指導者 80%、学生自己評価 20%)		

*この科目は実務経験のある教員による科目となります